

次世代システム 投入

売上高25年度300億円

三菱プレシジョン 自動運転向け開拓



鉄道用運転シミュレーションでは海外市場を開拓する

三菱プレシジョン（東京都江東区、藤本聖二社長、03・5531・8060）は、自動運転向けシミュレーションや次世代駐車場システムなどの市場投入で、2025年度に売上高を18年度比50%増の300億円とする経営目標を策定した。いずれもスマート社会を構成するインフラとして、新たな価値を提案することもに海外市場を開拓する。

三菱プレシジョンは、で同50%増の150億自動車メーカーの評価 円、駐車場システム事業や飛行機・鉄道・自業は同2倍の100億動車の運転訓練用シミュレータ、商業施設向けなどの駐車場システム、航空・宇宙機器を手がける。シミュレーション事業は売上高

システムを投入する。さらに認知機能が衰えている高齢者の挙動に対応した運転講習用システムを開発する計画。鉄道向けでは政府のインフラ輸出計画に合わせ、海外市場を開拓する。

駐車場システムでは200―300台の大規模をターゲットにする。20年末にネットワーク対応の次世代精算機を商品化するほか、駐車券のチケットレス化や「ETC2.0」を利用した駐車料金支払いシステムを投入する。

駐車車両のビッグデータ（大量データ）を活用したシステムも開発する。買い物客の住所、滞在時間と購買データを組み合わせたマーケティング手法や、一定エリアを面で管理して空き具合に応じた駐車料金の設定や業務用車の運用などを提案する。同社はスマート社会を支えるシステムとして需要が拡大するとみている。